

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 50人

② 算数 50人

5 留意事項

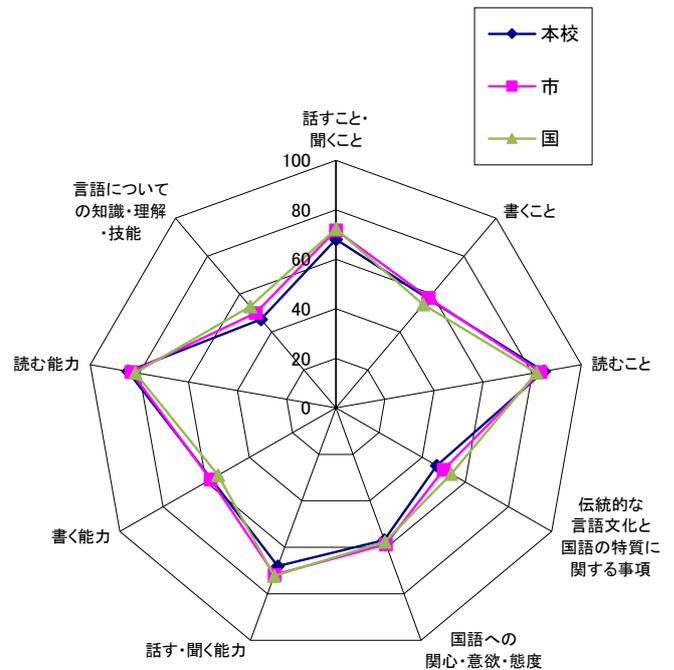
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.1	71.8	72.3
	書くこと	57.6	58.0	54.5
	読むこと	84.7	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	46.7	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	56.9	58.7	57.6
	話す・聞く能力	68.1	71.8	72.3
	書く能力	57.6	58.0	54.5
	読む能力	84.7	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	46.7	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

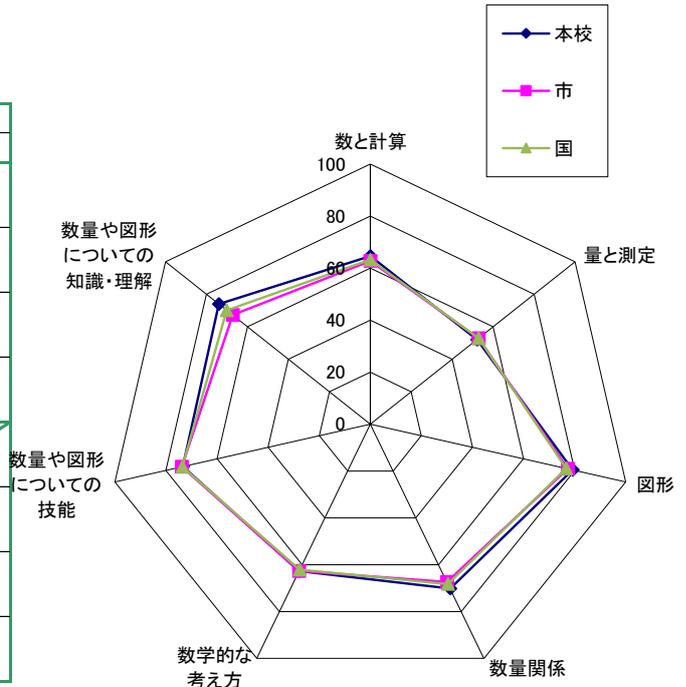
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均を4.2ポイント下回った。</p> <p>●すべての設問が全国平均を下回った。</p> <p>●インタビューの中で、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる設問の正答率が低かった。どのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するかのように、明確な目的をもって聞くことに大きな課題が見られる。</p>	<p>・授業中だけでなく、普段の生活の中でも話をしっかり聞く習慣を身に付けさせるよう、話を聞くことの大切さを引き続き指導していく。</p> <p>・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に積極的に参加できるように、自分の考えや友達のことをメモを取るよう指導していく。</p> <p>・総合的な学習の時間を中心に、目的をもってインタビューをする経験を意図的にさせていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、全国平均を3.1ポイント上回った。</p> <p>○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える設問の正答率は、全国平均を7.4ポイント上回った。</p> <p>○記述式の問題の無回答率が全国平均を下回った設問が見られた。授業の中に書く活動を意識して取り入れた成果だと思われる。</p> <p>●いくつかの条件を満たした文章で答える問題に課題が見られる。</p>	<p>・書くことに慣れてきたので、次のステップとして、自分から積極的に書きたいと思う場を設定していく。</p> <p>・100字作文や50字で自分の考えを書くなど、字数を意識して文章を書く活動を取り入れていく。</p> <p>・条件作文などにも取り組ませ、字数以外の条件でも書ける力をつけられるよう指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、全国平均を3ポイント上回った。</p> <p>○知りたいことを調べるために、選んだ本の目次の一部から、読むページとして適切なものを選択する設問では、全国平均を9.4ポイント上回った</p> <p>●疑問に思ったことへの答えを選択する設問では、全国平均を5.7ポイント下回った。説明文から必要な内容を読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・朝の読書などの読書指導や音読指導を引き続き行っていく。</p> <p>・多くの読み物に触れさせることで、心情をとらえる力の向上を図る。</p> <p>・説明文の構成を再確認させるとともに、多くの説明文に触れられる場を設定する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を6.8ポイント下回った。</p> <p>●漢字の読み書きはどの問題も全国平均を下回った。中には14.8ポイント下回った問題もあった。特に、同音異義語の正答率が低く、大きな課題と思われる。</p> <p>●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる設問では、正しく意味を理解していないための誤答</p>	<p>・漢字練習には引き続き毎日取り組ませる。</p> <p>・漢字に送り仮名や読み仮名をつけて練習したり、熟語で練習したりするなどして、生活の中で使える漢字の力を身に付けさせる。</p> <p>・同音異義語が正しく使えるように、漢字練習だけではなく、意味を調べ、文章の中で使えるように指導していく。</p> <p>・ことわざにふれる機会を意図的に多くもたせる。</p>

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	64.6	62.7	63.2
	量と測定	52.1	52.9	52.9
	図形	79.2	77.3	76.7
	数量関係	70.2	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	62.8	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	73.4	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	74.0	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を0.4%上回った。</p> <p>○示されている計算の仕方を解釈し、その求め方を記述したり、方法に則って基本的な計算をする問題は正答率が高い。</p> <p>●示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する設問で、正答率が全国平均を8.2%下回った。</p>	<p>・授業以外でも、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、基本的な計算の仕方について定着を図る。また、文章問題については、問題の内容を正確に読み取り、必要な数量を使って立式できるようにする。</p> <p>・様々な場面で、複数の情報から必要な情報を読み取る活動を取り入れ、問われていることに対して答えるのに、どの条件が必要かを判断する力を身に付けられるようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、全国平均を0.8%ほど下回った。</p> <p>○グラフの特徴や場面の状況を読み取り、単位量当たりの大きさを考え、求め方と答えを記述する問題では、全国平均を上回っている。</p> <p>●示された図形の面積の求め方を記述する問題では、平均正答率が全国平均を12.6%と大きく下回った。正答の一部分のみ答えている児童の数が多く、最終的に問われている内容の理解と、その考え方の説明の仕方に課題が見られる。</p>	<p>・複雑な図形面積の求め方について、いくつか導き方があることを確認する。また、導く方法について、言葉で説明する機会を設け、論理的に解答を導けるように指導していく。</p> <p>・問題文を丁寧に読み取ることの指導を継続していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、全国平均を2.5%上回った。</p> <p>○長方形を直線で切った図形の中から台形を選ぶ問題では、全国平均を4.8%上回っており、台形の性質について理解できている。</p> <p>●二つの合同な台形を動かしてほかの図形を構成する問題では、全国平均を0.1%上回り、ほぼ同じ正答率だったが、正答の一部分だけ合っている解答を選ぶ児童が多かった。</p>	<p>・図形の定義や性質についての理解を深めるために、復習を徹底する。</p> <p>・図形を複数組み合わせたときに、どのように組み合わせたのか認識できるよう、図形の捉え方について復習をする。また、学習した図形を実感的なものとして捉えられるよう、実際に図形を見せたり作ったりするなど、視覚的かつ体験的な活動を多く取り入れていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、全国平均を1.9%上回った。</p> <p>○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述する問題では、全国平均を6.2%上回っている。</p> <p>●棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題では、全国平均を1.4%下回り、読み取りの内容に誤りがある児童の数がやや多かった。</p>	<p>・百分率の求め方や割合の読み取りなどについては、繰り返し復習を行い、基礎的な学習内容の定着を図る。</p> <p>・グラフや資料の内容を正確に読み取ることができるよう、丁寧に指導していく。</p>

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校のきまりを守っている。」と回答した児童の割合は96.0%で、9割を超えている。「宮小こどものきまり」中心に決めた生活目標の確認や、いつでも低学年のお手本になるような行動をしようと児童自身が意識しながら生活している盛夏だと思われる。

引き続き、児童自身が最上級生という意識をもって行動できるよう支援をしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と回答した児童の割合は98.0%で、9割を超えており、全校で「いじめ0月間」、児童会が中心となった「いじめ0集会」などの取組や道徳の時間などにいじめについて考える活動を行った成果であると考えられる。

今後も、児童会活動などを生かして全校体制で指導していきたい。

○月曜日から金曜日の家庭学習時間は、1時間以上の児童の割合は72.0%で、全国平均を上回った。家庭学習カードを活用した家庭学習が児童に定着したものである。

今後も、家庭の協力を得ながら、実施していきたいと思う。

●「家で自分で計画を立てて勉強している。」と回答した児童の割合は60%で、全国平均を大きく下回った。家庭学習をしているが、宿題以外の学習には取り組めていない実態がある。中学校進学に向けて、自分で計画を立てて行う自主学習ができるよう支援をしていきたいと思う。

●「毎日新聞を読んでいる。」と回答した児童の割合は0%、「ほとんど読まない・全く読まない」と回答した児童の割合は70.0%だった。新聞を読むことが身近ではない児童が多いので、学校図書館に新聞を置いたり、児童が興味をもてるような記事を掲示したりしながら、児童が新聞を身近に感じられるような環境を整えていきたいと思う。

宇都宮市立宮の原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
正しく書くための指導の工夫	漢字の習熟や正しい言葉遣い、語彙を増やすなど基本的な内容の定着を図るために、朝の学習で指導をしたり、家庭学習で取り組ませたりする。	漢字の読み書きはどの問題も全国平均を下回った。中には14.8ポイント下回った問題もあった。特に、同音異義語の正答率が低く、大きな課題と思われる。
家庭学習の内容の工夫と改善	定期的に家庭学習の内容を確認したり、計画を見直したりしながら、自主的に家庭学習に取り組めるよう指導する。	月曜日から金曜日に1時間以上家庭学習をしていると回答した児童の割合が72%で全国平均を上回ったが、計画を立てて勉強していると回答した児童の割合は60%で、全国平均を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
複数の資料から読み取ったり、教科書の内容から発展させた問題の正答率が低い。	様々な形式の問題に取り組ませ、慣れさせる。	・複数の資料から読み取ったり、複数の資料を活用してまとめたりする学習活動を取り入れる。 ・理科や算数に学習では、教科書の実験や内容のみの理解にとどまらず、他のじれに置き換えたり、日常生活の中で発展的に捉えたりするようにしていく